

バリアフリーと哲学



哲学する本棚

からだやところ、ことばや文化の壁（バリア）から

自由（フリー）になるには？

いろんな意味のバリアフリーについて

考える本を 50 冊選びました。

哲学館ホワイエに期間限定の読書空間が出現します。

本を手にとって、読んで、考えてみてください。



2025 年

1/25 [土] — 3/9 [日] 会場：哲学館 B1F ホワイエ＜入場無料＞

からだの
バリアフリー

こころの
バリアフリー

異世代間の
バリアフリー

ジェンダー・
フリー

ことばと文化の
バリアフリー

哲学の
バリアフリー

哲学カフェ ① 1月26日「みんなと違うとかわいそう？」 ② 2月9日「男女平等？」 ③ 3月9日「世代が違う」と感じるとき」

時間：各回 13:30 ~ 15:30 定員：各 10 名 (要申込・先着順・参加費無料) 会場：哲学館ホワイエ

進行：高谷孝子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)

※哲学カフェは、集まった者同士で身近なテーマについて語り、考えるイベントです。手話通訳をご希望の方は、申込時にお知らせください。
参加申込は各回 1 か月前から 1 週間前まで哲学館 (076-283-6600 / nishida-museum@city.kahoku.lg.jp) で受け付けます。



石川県
西田幾多郎記念哲学館

Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井 1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <https://www.nishidatetsugakuan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook / Instagram でも関連情報を随時更新しています。



開館時間 ■ 9:00 ~ 17:00 (入室は 16:30 まで)

休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始 (12月29日~1月3日)

交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東 IC] - 国道 159 号線 (約 20 分)
のと里山海道 [白尾 IC] - (約 5 分)

【JR 利用】金沢駅 - IR いしかわ鉄道線・七尾線 (約 25 分) - 宇野気駅 -
徒歩 (約 20 分) - 哲学館





バリアフリーと哲学



展示書籍のご紹介

1 からだのバリアフリー

からだが思うように動かないとき、壁（バリア）を感じる。逆に、からだは他の人と違っていても、自由に生きる人もいます。

『新編 風の旅』

星野富弘／著 Gakken

体育の先生だった星野さんは、二十三歳のときの事故で、首から下が動かせなくなった。口に筆をくわえて、何日もかけて詩と絵を描く中で見たものは。



2 こころのバリアフリー

自分の思いが伝わらないときや、相手の思いが分からないとき、こころの壁（バリア）を感じる。こころとこころが出会うには？

『ツレがうつになりまして。』

細川昭々／著 幻冬舎

スーパーサラリーマンだったツレが、突然、うつになった。ツレの調子は振り子のように、良くなったり悪くなったりする。つらい中にも、ちょっと笑える二人闘病記。



3 異世代間のバリアフリー

「これだから最近の若者は…」、「…あんな老人にはなりたくない」。世代が違くと、コミュニケーションが取りづらい？ 何が壁（バリア）になっているのだろう？

『世代問題の再燃—ハイデガー、アーレントとともに哲学する』

森一郎／著 明石書店

世代を超えて残り続ける「核のごみ」をどう考えるか？ 世代を超えて受け継がれてきた「体育館」を壊してしまうのか？ 死と誕生の限界を超えて、世代問題の哲学へ。



4 ジェンダー・フリー

男の子は泣いちゃダメ？ 女の子はおしゃれが好き？ そう思い込んでいるのなら、ジェンダーの壁（バリア）に囚われているかもしれない。

『キレイならいいのか—ビューティ・バイアス』

デボラ L. ロード／著 栗原泉／訳 亜紀書房

「所長！ 昼食会には、髪をアップして、毎年新しいドレスを着て出席してください！」どうして、女性ばかりが見た目に気を遣わないといけなの？ おしゃれの自由が、実は女性を縛っているかもしれない。



5 ことばと文化のバリアフリー

知らないことばを話す人は、壁（バリア）の向こうにいるかのようだ。あのことばを話せたなら、もっと世界が広がるだろう。

『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた 30 のこと』

五十嵐大／著 幻冬舎

「親が障がい者である」という呪縛から逃れて、「ふつつ」になりたい…。聴こえない両親のもとに生まれた聴こえる著者が、世間に傷つき、親を傷つけながら、ようやくたどり着いた「今」がある。



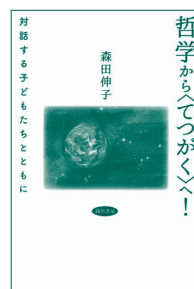
6 哲学のバリアフリー

古代ギリシャの哲学は、限られた自由人だけのものだった。でも、本当は、誰でも哲学していいんだ！ そのために、「哲学対話」や「哲学カフェ」がある。

『哲学から〈てつがく〉へ！—対話する子どもたちとともに』

森田伸子／著 勁草書房

「てつがくすることは、貯金箱に一つずつ確実な知識を蓄えていくこととはちがう。…それは生きる時間を経験することそのもの」。学校でみんなでする「てつがく」は、にぎやかだ。



展示会場「ホワイエ」の紹介

哲学館のホワイエは、傾いた曲線のコンクリートが大きなガラスの天窗へと広がりながら向かっていく、すり鉢状の円形空間です。円形に切られた空を眺めながら思索することができます。期間中はホワイエの中央にこたつが設置され、周囲に展示された本を自由に手にとって読むことができます。